

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 笑生苑より愛		
所在地	防府市大字仁井令765-6		
電話番号	0835-21-8555	事業所番号	3590600023
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		

訪問調査日	平成 21 年 9 月 11 日	評価確定日	平成 21 年 11 月 26 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	12 人	常勤 5 人 非常勤 7 人 (常勤換算 6 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造(在来工法) 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 24,000 円	敷金	無	円
保証金	有 184,200 円	償却の有無	有	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額 27,900 円			
	内訳 光熱水費 13,500円 日用品費 9,000円 衛生管理費 5,400円			

(4) 利用者の概要 (9月11日現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	1	要介護 4	0
	要介護 2	5	要介護 5	0
	要介護 3	3	要支援 2	0
年齢	平均 85.5 歳	最低 81 歳	最高 93 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	内科 ひらた内科呼吸器科医院、相川医院、防府消化器病センター 歯科 きしもと歯科医院
-------------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

1戸建て民家をリフォームし、居室をそのまま活用した家庭的な雰囲気の中で、その人らしくゆったりとくつろいで生活できるように支援されています。利用者は広い廊下のソファでくつろいだり、庭や隣家、道路などを眺めながら、違和感なく日常生活を送ってられます。

(特徴的な取組等)

利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細やかに連絡ノートに記録し、職員で共有して、家族と連絡を密にしながらサービスの向上に努めてられます。月に一人1回喫茶店(地域内にある)に出かけて地域との交流を図ったり、年に1回6人の利用者が温泉に行く等利用者の希望に添って生き生きした日々を暮らせるように取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果は全体会議で検討し、事業所独自の理念をつくりあげたり、苦情処理の手続きの明確化につとめる等取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価は職員全員で取り組み、項目ごとに話し合い、管理者が記入されています。自己評価を行うことで、サービスの見直しが出来、ホームの質の向上に役立っています。

(運営推進会議の取組状況)

3ヶ月に1回自治会長、民生委員、住民、家族、市地域包括支援センター職員、市高齢障害課職員、ホーム職員で開催し、利用者の状況報告や外部評価報告など意見交換をされています。

(家族との連携状況)

利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細やかに連絡ノートに記録し、面会時や電話などで連絡を密にされています。年1回法人のグループホームと合同で家族交流会を開催してられます。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、地域の敬老会や学習会館の「高齢者教室」に参加し、ホームで収穫した作物を届けたり、散歩、月に一人1回喫茶店(地域内にある)にでかけるなど地域交流を図ってられます。不燃ごみの収集当番や清掃などに職員が参加してられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	全職員で話し合い「心に寄り添う生活、和の生活、安全・安心な環境で生活、笑いの絶えない生活、地域交流・よき交わり」と地域密着型サービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員は理念を共有し、月間業務記録に理念の項目ごとに、反省と課題(目標)等を記入して話し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、地域の祭りや敬老会、学習会館の「高齢者教室」に参加し、同じ班の方にホームで収穫した農作物を届けたり、散歩等で地域交流をしている。不燃ごみの収集当番や清掃等は職員が参加している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価書を職員全員に記入してもらい、評価結果を検討し、管理者とリーダーでまとめている。ケアの方法や課題が見えて来て、評価を活かして具体的に改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	3ヶ月に1回、自治会長、民生委員、家族、住民、市地域包括支援センター職員、市高齢障害課職員、施設職員で開催し、利用者の状況や外部評価結果などを報告して意見交換を行い、サービスに活かしている。	・開催回数の検討
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険課とは介護手続き等の連携、市地域包括支援センターとは認知症の啓発方法などで、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の状況を「連絡ノート」に記録し、職員が共有し、随時、面会時や電話で、日々の様子や健康状態を報告し、職員の異動なども伝え、意見や要望を聞いている。年1回法人の他のグループホームと合同で家族交流会を開催している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話などで意見や要望を聞くようにし、意見は運営に反映している。相談や苦情を受け付ける窓口を明示し、苦情処理の手続きを明確にしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤5名、非常勤7名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応出来るようにしている。非常勤職員も研修に参加してもらい、日勤や夜勤を任せられるように教育し、勤務調整に協力してもらっている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が年休等取りやすく、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。離職は今年度はなく、異動等による利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員は、毎月開催される法人の内部研修や外部研修に参加し、スキルアップを図っている。半年毎に個人目標に対する自己評価をし、働きながらトレーニングに取り組んでいる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県内や地域ブロックのグループホーム協議会の学習会や施設見学に参加し、ネットワークづくりを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>家族と相談しながら施設見学や体験入所をしてもらい、他の利用者や職員と馴染みの関係づくりをしている。入居後も、帰宅願望の強い利用者は職員がマンツーマンで寄り添い、家族の協力を得ながら工夫をしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>料理の味付けを教わったり、畑づくりで植え付けを習ったり、一緒に過ごしながら、支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の会話や行動などを記録し、職員間で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスを月1回開催し、本人や家族からの思いや希望、意見を取り入れて話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。年1回家族会を行い、カンファレンスに参加している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>職員の連絡ノートや家族の要望など月1回のカンファレンスで検討をし、変化がある場合は見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎や付き添い、月に1回の喫茶店への外出、年1回の温泉旅行、買い物、往診、訪問看護、訪問美容の支援など、本人や家族の要望に柔軟に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人及び家族の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、協力医に変更の場合は管理者が同行し、情報を伝え適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に対する対応指針を作成し、契約時にホームで出来るケアについて説明し、同意書ももらっている。家族交流会で重度化や終末期に向けた方針について家族の希望や意思確認を行い共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉や日常の態度についてはミーティング等で話し合い、職員は充分認識している。記録等は見えない場所に保管し、情報提供の同意を得ている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	午前中のスケジュールは計画されているが、散歩や読書など一人ひとりの希望に沿って支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は法人から配食され、月2回昼食をホームで調理している。利用者は献立に希望を出したり、野菜の下ごしらえに参加し、日常は盛り付け、お盆拭き、後片付けなどしている。利用者と職員は同じ食事を食べながら楽しめるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は15:00～18:00まで週3回であるが、希望すれば毎日の入浴も可能である。入浴を嫌がる利用者には足浴やシャワー浴などで対応している。年2回温泉に出かけて、職員と一緒に入浴を楽しんでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	軽体操、オカリナ鑑賞、花見、温泉、ドライブ、畑づくり、喫茶での交流、花壇づくりなど楽しみ事や、調理の下ごしらえ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い等活躍出来る場面づくりや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くの喫茶店に月に一人1回出かけて交流を楽しんだり、お大師様まで散歩、買い物など一人ひとりの希望に沿って、外出の支援をしている。	
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の拘束委員会の研修会に参加し、拘束を正しく理解しており、スピーチロックによる拘束は特に注意をしている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の状況や建物の立地環境等から安全面で危険が大きいため、家族の了解もあり、玄関を施錠しブザーを付けている。施錠は理解できる人にはあけられる状態であり、「開けて」と言えば開けて一緒に外に出られるようにしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと報告書、事故報告書を作成し、全体会議等で話し合い、事故防止に取り組んでいる。法人で行う事故防止委員会の研修会に参加している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成し、応急手当等については法人の研修会に参加して学んでいるが、ホームでの定期的な訓練は実施していない。	・ホームでの定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回消防署の指導による訓練と、ホーム独自の避難訓練を年2回実施し、夜間想定訓練や消火器使用訓練も行っている。法人で乾電池、ヘルメット、ペットボトル、非常食など備蓄されている。地域の人々の協力を得られる働きかけをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報はファイルされ、職員は薬の目的や副作用、用法や用量は理解しており、服薬は手渡しで服用まで確認している。変化が生じた場合は医師や薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに合った支援をしている。歯ブラシは毎日、義歯は週2回消毒している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	月1回、体重測定を実施している。食事摂取量は毎回記録し、水分量はほぼ把握している。栄養管理委員会で好みや、味のアンケートを取り、食事に活かしている。カロリーや栄養バランスは配食なので法人の栄養士が行っており、助言をもらっている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、感染症対策委員会で予防や対応が決められ実行している。手洗いやうがいの励行、週2回手すりの消毒、居室の消毒やペーパータオルの使用など徹底している。訪問看護師による具体的な指導も受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	民家を改造したホームで、襖や障子で間仕切りされた居室は家庭的で不安なく過ごしている。広い縁側から庭や道を歩く様子も何え、ゲームをしたり、雑談をして和やかに過ごしている。住宅街で生活感、季節感も充分感じられ、居心地良く過ごせるように支援をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	箆箆や押し入れなどが備え付けであったり、床の間がある部屋等さまざま、利用者や家族と相談しながら使い慣れたテレビや鏡台等本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人 ひとつの会 グループホーム 笑生苑 “より愛”
所在地	防府市 仁井令 765 - 6
電話番号	0 8 3 5 - 2 1 - 8 5 5 5
開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (8 月 1 日現在)

ユニットの名称	より愛			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	1	要介護 4	
	要介護 2	5	要介護 5	
	要介護 3	3	要支援 2	
年齢構成	平均 歳	最低 81 歳	最高 93 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価項目にスタッフ全員が答えます。全員の内容を要約し、管理者が記入しました
評価確定日	平成 21 年 8 月 20 日

【サービスの特徴】

- * ハード面は地域の住宅街に和風建築の一戸建てで、狭いけれども和風の庭もあり、朝のひと時は庭を観ることで心を和ませてくれます。
- * ソフト面は入居者の生活レベル(認知症)はほぼ同じくらいで、コミュニケーションも支持も双方で可能です。生活意欲も高く、余暇活動を自主的、積極的に行います。
- * 天候の良い日の毎日の散歩は脚力低下の予防
- * お米研ぎ、食器洗い、洗濯物干し・畳むの手伝いは生活の回想
- * 同自治会のボランティアさんのオカリナ演奏と音楽活動・手芸は生活のQOLと地域交流
- * 家族参加の外出支援は入居者・家族・職員との家族交流
- * 自治会の行事に年に2~3回は参加し、地域交流をしています
- * 学習療法には最初の頃は参加は強制はしていなかったが、今では全員参加

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>プライバシーの問題もあるが、地域の方にホームの入居者や職員を知っていただくホームだよりを自治会に回覧したい</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>昨年よりも今年、今年よりも来年と着実に自分の物になるように、ケアの質の向上に努めていきたい</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>ケースワークを中心にグループワークの向上と尊厳を大切にケアを行っていきます</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>運営者がもっとホームに入って来て欲しい。</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>プライバシーの尊厳に配慮し苑だより発行をし、自治会に回覧したい</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>小学校や保育園の運動会の見学をしたい</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>自治会を通して高齢者の方とその家族へ施設見学の案内をしたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うことで行っているサービスの見直しが出来、新に 他にも取り組んでみたいことが見えてくる	職員が中心になって出来るようになって欲しい
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	参加者の意見を次へのサービスや地域交流に活かしている	以前はひとりの入居者の家族代表者が通して参加していたが、今年度から参加を2回交代で全家族が参加する事になった。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	月初めの介護保険の更新手続きで市の高齢障害課の窓口に行った時に話をし、意見などを聴く事はある	市から施設を訪問などして欲しい
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	法人の月に1度の研修会の中で権利擁護と成年後見人について研修を行ったので理解は出来ていると思う。	現在必要とする入居者はいないが必要になれば助言と支援を行う
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内での研修や一部職員は外部研修で学びました。職員全体会議で研修に参加した職員は復命しました。虐待が行われないようお互いに注意し努めていく	研修会などで学んだが、再度部署内でも研修を計画したい
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前に行くことは、施設見学と本人または家族との面談です。(インテーク)申込書を頂いて入所が確定する時に契約書、重要事項説明を行い納得のうえで契約書に印鑑を頂きます。契約時には家族の相談を受けながら説明を進めます。	アセスメントの内容をもっと実的なところを把握できるように家族と話をしたい。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来苑時に情報交換を図る様に、家族に生活状況をお話しし、家族からの話も聴いています。ニーズをケアに反映させています	家族の来苑時に(月1~2回)衣類のチェックをしてもらいますが、来苑しても本人と会う時間短く、衣類のことは職員に…ともっと家族にお願いをしていきたい
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	本人の現状は常時来苑時や必要に応じて電話で話をしています(家族の面会は月に1回以上と契約しています)	金銭管理はしていませんが、職員の異動については知らせていませんでしたので検討していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	閲覧できる様にしています。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約を交わす時に説明をしています。また、入所後には地域運営推進会議にて話しています		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員全体会議にて法人の運営会議の報告をしていますし職員からの意見を管理者は運営会議にて提案しています		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	身体状況の変化による受診に家族が同行出来ない時は職員が通院介助を行うが介助で職員が抜けた処のシフトにパート職員がシフトに就く様にしている。パート職員が業務代行にはいる事で、サービス提供に支障は無い		通院や外出支援などで職員数が必要な時はパート職員を起用している
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員同士の働きやすい環境づくりに改善している。急用や体調不良、私用などでの年休の取りやすい体制にし今年度は離職は殆ど無い		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修参加、法人内研修参加は勤務に支障が無い限り全職員参加している。職員本人の向上心に差を一年に2回の個人面談の時に感じることはある		部署内研修を隔月程度で計画をしたい
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。			開設当初は職員に福祉関係職の経験者は殆ど居無い出発でした。思いのある職員が経験を積んできました。研修に参加し資質の向上を図りたい
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県内と地域ブロックのグループホーム協議会の懇親会学習会や施設見学会に参加し交流をしている。		G・H協議会の研修に多く参加しグループホームとの交流を行い、良いところを参考にして改善点をチェックしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		これからも、体験入所の方法を図っていきたい
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		クライアント自身の生活上の問題だけにお応えするのではなく、取り巻く生活環境をも検討して支援していけるようにしたい
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		家族とのコミュニケーションを密にしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	頻繁にホームに来訪し易い雰囲気なのか息子さんが仕事帰りに寄ることはしばしばある。また、娘さん姉妹皆さんで来訪するなど 家族が来られることは日々あります		家族参加の1日旅行で海響館へ行きました。 毎年1回は行いたい
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	来苑宿泊、外出、外食、1日帰宅などで家族との時間を共有しています。		家族、1日お泊り交流会を行いたい
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚、知人の来訪、また、外出支援などを通して防府市内の名所などを見学し、昔を思い出し、話題にしている		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日の午前中の入居者全員での軽体操やレクリエーション、家事の手伝いの役割で共生意識を感じ、協働作業を通してコミュニケーションを図っている。		一人の方が裁縫が好きなので、他の入居者の繕いなどを頼んでいます
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	同じ法人の他事業所に移動した方は継続しやすく、切れないうが他の施設や医療関係に移動した方は継続は難しい		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自宅で家事を手伝っていた方は自分が手伝うことの習慣があり、手伝おうと言うので役割にする。夜は20時まではTVを見たいと言う方は、		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所申込や入所時にアセスメントを取り把握している。在宅の時のケアマネさんからの情報もあります。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	早出勤務者が朝食後口腔ケアを行った後にバイタルを取り、健康状態を把握した後に午前のレクと午後の入浴の予定を行う		クライアントからのニーズを出来るだけ意図的に表現してもらえるように関わりをもつ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1度カンファレンスを実施し、職員が意見交換できる場を設けている。年1回家族交流会を行い、家族から本人の生活歴から情報を聞くことで何を好まれていたのか、また、家族からのニーズを聞くことでケアプランに活かしている	個々の心身の状態と認知症状のスレールを取り直しを行う(MMS)
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	体調不良や認知力の変化など職員が発見したら、早期に管理者に報告し、どのように対応するのか話し合っている。主治医に状況を報告し専門医の受診が必要であれば紹介状を持って受診、基本的には家族受診です(職員の対応もある)	職員と主治医、主治医と家族の関係も必要
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	出勤時にケース記録と情報連絡帳を全職員が目を通す。日勤者と夜勤者が個別記録を通して、特に変化がある方、もしくは重要なことがあれば申し送っている。	記録の書き方と申し送りの時間短縮を心掛けていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	隔週での係り付け医の往診や週1回訪問看護を利用している。福祉タクシーなども利用し、家族での受診が困難な方には、利用を勧めている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	3ヶ月に1度の運営推進会議では地域での催しもの情報を得るよい機会になっている。地域の方も隔週でボランティアに来てくださっている。市広報を通しての情報で地域活動に参加している(高齢者教室など)	施設だよりの発行をし自治会のかいらんと警察や自治会内にある公共施設への配布を行いたい
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	家族の来苑は多いものの、入居される方の見学は少ない。自治会館を利用し「認知症の理解」の講話を行った。	自治会を通して高齢者の方とその家族へ施設見学の案内をしたい。今年度も自治会での「認知症の理解」の講話を行う予定です
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	行っていない	他のサービス(介護保険内)を利用できることを知らない。実費での利用は経費の問題で利用は難しいと思う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域運営推進会議の参加をしてもらっている事もあり、包括支援センターとの交流をしていきたい
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		処置などが必要な症状の時は訪問看護に主治医が特別医療の指示書を出してくれ、訪看がホームに来院して処置をしている
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		受診は可能なものの、定期的ではないので定期的な受診が出来るように検討したい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		看護師から介護職員への医療系の勉強会を行いたい
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		家族とのカンファレンスで緊急時の医療機関を家族に決めてもらっている。緊急時は職員が行なうが家族に引き継ぎ、医師フォームドコンセントの報告を職員に伝えもらう
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		家族はその場になってみないと分からないと話す方が多く、今後話を詰めていく必要がある。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今のうちから、対応を話し合い、準備する必要がある。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		多機能の事業所であることを活用し、同じ法人内で施設が変わるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>”さん”付けで呼名し、かた苦しくなく、馴れ合いにもならないように気をつけている。</p>	<p>本人の精神状態を見ながら、職員を孫と思っているときは「ばあちゃん」と呼ぶときもある。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>物事を始める前に、必ず説明し、納得してもらうよう心掛けている。参加か不参加かは本人に決定してもらっている。自己決定 出来る人が半数、助言で判断できる方が半数である</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>職員は入居者のADLの把握をしており、各役割分担を職員のなで考えていますが、その日の様子を観て声掛けをしそれぞれの家事を分担し手伝ってもらっている。</p>	<p>出来る限り、全員の方に役割意識と自己満足を感じてもらえるよう支援している</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>午前中は集団で行う体操やレクを日課にしている。それに参加するかしないかは本にに決定してもらっている。食事時間についても体調不良の時などは本人の意思に任せている</p>	<p>一日の長い時間共生することに無理のないように静養時間をもてる様に声掛けをしている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身体的に外出での理髪が難しい方は2ヶ月に一度、出張散髪にしている。本人の体調に合わせて支援している</p>	<p>月1度、化粧ボランティアに訪問してもらい、化粧に関心を持ってもらっている。</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>月2回、昼食時にクッキングを行っている。好きな食べ物を入居者にたずね、一緒に調理できるきっかけを作っている。</p>	<p>皆さん、刺身が好きなので、気候に合わせて月に4回まで行ないたい。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>ご家族が「お酒が好きだから」と持ってこられる、お酒などは晩酌程度にお出ししていたが、体調を崩されてからは、行っていない。</p>	<p>おやつは出来る限り選んで購入している</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>尿意のない方でも、日中は定期的に声掛けし、トイレ誘導している。夜間はパターンを取り、3時間おきにトイレ誘導している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		市内の温泉施設に職員の外出支援で数名と行く。今後も、継続していきたい。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		外出の機会を季節の行事とあわせて行っている。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		希望すれば、はがきを利用して季節毎の近況を入居者から家族に便りを出す事も支援していく。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		家族の方の中には仕事の帰りにホームに寄って親子の時間を共有して家路に着く方もいます。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		ご家族来苑時、川の字で寝ておられた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	苑から文章で、家族に行事への参加を呼びかけている。(お花見、夏祭りなど)		年間行事計画を家族にも発送し事前に家族にも知ってもらう
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルはあるが全職員の認識は薄いと思う		部署内研修を行なう計画をします
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関だけは施錠しているが、理解できている人は開けられる状態ではある。帰宅願望などで「開けて」と言えば、開けて一緒に外に出られるようにしている。		
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、入居者のほとんどがリビングで過ごされる。夜間は、定期的に巡視を行い、様子を観察している。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬は鍵のついた棚に保管している。洗剤類は目のつかないところに収納している。		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	歩行不安定の方には必ず見守りを行っている。ガスコンロ使用時はその場から離れない。入居者の居場所を常に把握している。食事中は誤燕のないように見守り、食べやすい形態で提供している。		
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当の講義などに参加して、他の職員へ復命している。		法人研修会で全職員の緊急時対応の勉強を行なってもらえるよう働き掛けを行なう
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故発生後には直ぐに職員が話し合いの場を持つ。再発防止のために改善策を考え、全職員に周知徹底し、実践している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災時の避難訓練を年2回実施している。		地震・水害時の避難訓練を計画し、早期に実施したい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族交流会の場を設け、個人的に面談に応じられるようにしている。随時、気が付があれば家族に電話連絡している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、時間を決めてバイタルチェックを行っている。少しでも変化があれば、医療につなげる様に出勤者で話し合い、対応している。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は往診の際、医師の指示を聞き、処方された薬を薬情と処方箋で確認する。服薬後の状況は必要に応じて医師に報告を行なう。(服薬後の経過)		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	がんこな便秘のある方には、個人的にヨーグルトを食べてもらっている。その他、水分補給や定期的な体操を実施している。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員が見守りながら義歯洗浄を行っている。週2回のポリドントを実施している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	月に1回の体重測定で体重増加傾向の方には主食を少なめにしたり、食の細かい方には食事内容の工夫をし個別に対応している。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルはありますが予防として食事前、外出の帰苑時の手洗いうがい、また、週に2回の居室の消毒拭き掃除に心掛けて過去3年間継続している		感染予防委員会に参加し職員の介護の質の向上に繋げたい
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾などは1日1回必ず漂白し、食器類は食器乾燥機で高温消毒している。施設では炊飯は行っているため、検食を取り、2週間保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	駐車スペースが狭いため、家族の中には、不自由に思っている方もいる。	職員は夜勤者以外はホームの駐車場は使用しないようにしている。職員駐車場は別な場所に設けている
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	トイレが2箇所(各階に1箇所ずつ)であるが、行く時間帯が重なるため、待つ時間が出来てしまう。 玄関やリビングには季節の花を飾っている。 手芸VOLさんが季節毎のものを毎回考えてくださり、一緒に作っている。完成すれば玄関や居室に飾っている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	縁側にソファを置き、自由に行き来できるようにしている。 庭を眺めたり、話をしたりする場になっている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうようにお話ししているので、タンスなど持ち込まれている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	状況に応じてエアコンを利用し室内温度を調節している。	日中は窓やガラス戸は開き風を通して心地よい季節感を感じる事にしているが気候と入居者の身体状況に合わせて対応している
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	部屋の出入り口は段差の有る部屋とフラットの部屋が有るが注意を促す習慣を通し躓きなどの転倒は今までにはない。	これからも注意を怠ることなく転倒予防の支援していきたい
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	「便所」と大きな文字で示したり、自室前に表札を下げるなど工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランターや花壇を利用し、野菜や花の栽培を行っている。	今後も季節に応じた野菜や花を栽培したい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない